

○ ニンドウ（忍冬）

語源

学名 スイカズラ属 *Lonicera*：16世紀ドイツの数学者で採集家でもあったアダム-ロニツァー(Adam Lonizer)の名をラテン語化した *Lonicera* にちなむ。種小名 *japonica*：日本の、という意味。和名 スイカズラ：「吸い鬚(かずら)」は、花中に蜜がありこれを吸うときの唇の形に花が似ていること、または子どもが花の蜜を吸うため、あるいはおできの吸い出しに利用したことから。また忍冬とは、冬でも枯れずに寒さに耐え忍ぶことに由来する。別名キンギンカ(金銀花)は、花の色が初め白色で後に黄色に変わるため。



基原

Lonicera japonica Thunberg スイカズラ
スイカズラ科 つる性常緑低木

中国では一般に「金銀藤(きんぎんとう)」と称し、葉の付いた幼枝を「銀花藤」といい、古い茎だけのものを「忍冬藤」という。

薬用部分

葉及び茎

花蕾は金銀花と呼び、生薬として利用される。現在、中国ではおもに金銀花を用いて茎や葉はあまり用いないが、日本では民間薬としても漢方薬としても全草がよく用いられている。



産地

中国(浙江、四川、江蘇、河南、陝西、山東、広西、湖南など)、日本(四国地方)

主な成分

イリドイド配糖体：ロガニン
フラボノイド：ロニセリン、ルテオリンなど
フェノール誘導体：カフェ酸など
アルカロイド：ベネトルピン
サポニン：ロニセリン

主な薬効

抗菌、解熱、解毒

代表的処方

清熱、解熱の効果が有り、温病発熱、筋骨疼痛に用いられる。日本でも民間薬として古くから健胃、利尿薬、あるいは浴用剤として利用されてきた。日本薬局方外生薬規格に収載されていた。

【治頭瘡一方】

ヂズソウイッポウ、ジズソウイッポウ

体力中等度以上のものの顔面、頭部などの皮膚疾患で、ときにかゆみ、分泌物などがあるものの次の諸症：
湿疹・皮膚炎、乳幼児の湿疹・皮膚炎

(処方内容) 連翹／蒼朮／川芎／防風／忍冬／荊芥／甘草／紅花／大黃

【紫根牡蠣湯】

シコンボレイトウ

体力中等度以下のもの、消耗性疾患などに伴うものの次の諸症：乳腺の痛み、痔の痛み、湿疹・皮膚炎、貧血、疲労倦怠

(処方内容) 当歸／芍薬／川芎／大黃／升麻／牡蠣／黄耆／紫根／甘草／忍冬

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「日本薬草全書」「家庭の民間薬・漢方薬」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp